

「社会人基礎力」育成のためのキャリア教育の実践 ーICT教材を活用した高校生による模擬店運営の試みー

A Practice Research on Career Education for Fostering of Fundamental Competencies for Working Persons : Experience of Simulated Shop Management using ICT by High School Students

* 1 * 2
金城 満／杉尾 幸司

工業高校におけるデザイン教育とキャリア教育との共通部分に注目して、学校行事における高校生の模擬店(Cafe)の企画・運営の実践をととして、「社会人基礎力」の育成を図る実践研究を行った。具体的には、事前学習のためのICT教材を開発して実践前に必要な知識技術を学ばせた後、実際のCafe運営を体験させた。ICT教材の内容は、「社会から求められている能力」、「コミュニケーションとは」、「デザインの定義」、「社会人基礎力とは」、「マーケティング」、「アクティブラーニング(協調学習・ジグソー法)」、「コーヒー焙煎・抽出方法」の7項目から構成されている。Cafe運営実施前、実施後のアンケート調査からは、事前学習と実施体験が、知識と体験を一体化させる効果を生み、本実践が社会人基礎力の育成に効果的であり、デザイン教育と連携した取り組みがキャリア教育としての効果を向上させ、社会人基礎力の育成に生かせることが明らかになった。

<キーワード>

キャリア教育, デザイン教育, 社会人基礎力, ICT教材, コミュニケーション

1. はじめに

中央教育審議会(2011)は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」と題する答申¹⁾において、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義し、『人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである』と述べている。また、「キャリア教育の実施にあたっては、社会や職業にかかわる様々な現場における体験的な学習活動の機会を設け、それらの体験を通して、子

ども・若者に自己と社会の双方についての多様な気づきや発見を得させることが重要である」と体験的な学習活動の重要性を指摘している。その一方で本答申では、『「体験活動が重要」という側面のみをとらえて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘されるなど、一人一人の教師の受け止め方や実践の内容・水準に、ばらつきがあることも課題としてうかがえる』という懸念も示しており、学校教育において、「キャリア教育の本来の理念に立ち返った理解を共有していくことが重要である」と提言している。

高等学校においても、特定の職業に従事することを想定した職業教育だけでなく、キャリア教育の理念に基づく進路指導の実践の改善・充実が求められており、高

論文受理日:2017年3月14日

* 1 KINJO Mitsuru : 沖縄県立浦添工業高校(沖縄県浦添市経塚1-1-1) mkingmking@mac.com

* 2 SUGIO Koji: 琉球大学大学院教育学研究(沖縄県西原町千原1番地)sugio@edu.u-ryukyu.ac.jp

等学校学習指導要領「総則」(平成21年告示)^[2]では、教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項に「生徒が自己の在り方生き方を考え、主体的に進路を選択できるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的・計画的な進路指導を行い、キャリア教育を推進すること」が明示されている。このように、社会人・職業人として自立が迫られる時期である高等学校において、キャリア教育の充実が喫緊の課題である。

本実践を実施した沖縄県立U工業高等学校においても、卒業後の進路として4割程度の生徒が就職を選択しており、進路指導の一環として生徒一人一人の社会的・職業的自立を促すキャリア教育の充実が強く求められる状況にある。

また、沖縄県では、若年層(15~29歳)の完全失業率が8.6%と全国平均(4.6%)に比べて高い状態にあり、他府県と比較して若年層の就業が厳しい環境にある。

島田(2013)^[3]は厚生労働省の「雇用動向調査」を用いて、「県内の離職率は産業合計で26.8%となる。全国の離職率は14.4%であることから12.4ポイントも高率になっている」と述べ離職率の高さを指摘している。また、全国と沖縄の結果に開きがあることについて、「沖縄の企業は全国平均よりも規模の小さい企業が多く、サービス業で働いている人が多いことから、若年者の離職率が高くなっている」と分析している。

このような現状を踏まえ、沖縄県の専門高校においても、将来の職業を意識させる学習の一環としてインターンシップを行っている。しかしながら、インターンシップの性質上、各職場内での部分的な業務や、礼儀作法等の基本的な事項は体験できるものの、必ずしも主体的、能動的な研修とは言えない状況も生じている。また、受け入れ側の事情を優先させるため、生徒が希望する事業所でインターンシップを行えない場合が多いのが実

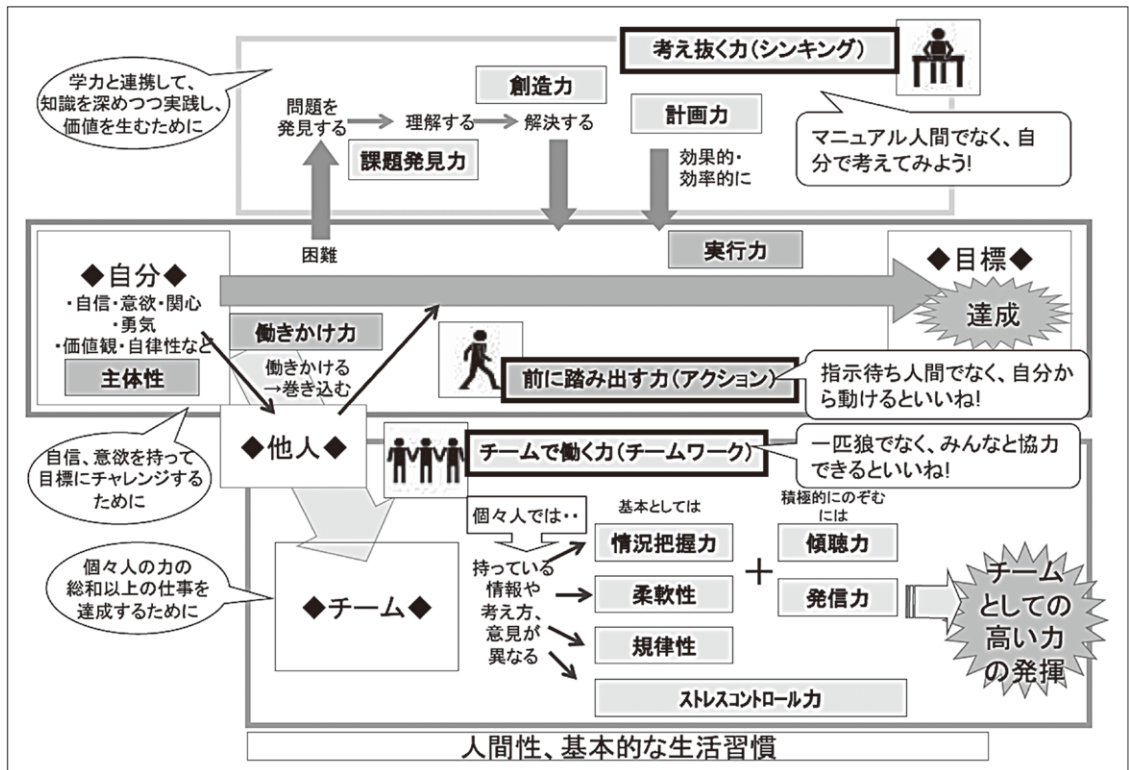


図1 社会人基礎力の構成

<https://www.wakuwaku-catch.com>「社会人基礎力育成の手引き」^[5]より

情である。そのためインターンシップ以外にも、キャリア教育の理念を生かした取り組みを実施する必要性を感じ、学校行事で生徒達が企画・運営する模擬店出店を計画した。また、その際の活動目標の指標として、経済産業省が提唱^[4]している「社会人基礎力」を使用した。社会人基礎力は、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として「前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)」の3つの能力(12の能力要素)から構成されている(図1)。このように、将来実社会で仕事をしていくために必要な能力や要素が具体的に定義されており^[5]、生徒達にもイメージし易いため、活動評価の基準として採用した。

社会人基礎力の育成に関する事業は、主に大学教育において推進されてきたため^[6]、高等学校における事例報告については情報が非常に少ないのが現状である。田中(2015)^[7]は、工業高校における「社会人基礎力」の定着度を調査し、3つの能力のうち「考え抜く力」の評価が低いことを明らかにし、さらに、「高校と大学が積極的に連携し、将来の有意な人材の育成を高等学校と大学が一体となって行われることが求められる」と述べ、効果的な高大連携のあり方についての検討の必要性について指摘している。しかし、高等学校におけるキャリア教育として、生徒自身が模擬店等を企画・運営する取り組みを通して「社会人基礎力」の育成を図る実践や取り組みへの評価に関する報告は見出せなかった。そのため、生徒達が模擬店を企画・運営する活動を「社会人基礎力」の観点から評価する実践研究を実施した。本報ではその詳細と、アンケート調査結果から明らかになった取り組み内容の評価について報告する。

2. デザイン教育の定義

デザイン教育について、富山(2007)^[8]は、美術教育の観点で「デザイン教育」を語る上で、ある意味で混同されている「構成教育」との関連を整理する必要があると指

摘し、これはデザインを一つの独立した表現分野として「構成表現」学習と考えるか、それともデザインの本質である「問題解決のマネジメント体系」の学習と捉えるかに係わる問題であると述べ、デザイン教育とは「装飾や構成」制作を行う美術表現教育ではなく、「自ら課題を発見し、それを整理して、正解なき答えを導き出すプロセス」を学ぶ、問題解決マネジメント教育であると定義している。これは、総合的な学習の時間の目標である「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする」^[9]とも合致している。そのため、本実践を行ったデザイン科では、デザイン教育を「専門教育で培った知識・技能・表現力を活用した協働的な問題解決のための教育」と定義して実施している。

3. 実践内容

(1) 実践環境および対象

実践活動を実施した沖縄県立U工業高等学校は、デザイン科(2クラス)、情報技術科(2クラス)、インテリア科(2クラス)、調理科(1クラス)の合計4科7クラスの全日制課程を持つ工業高等学校である。学校行事として、毎年12月に工業祭を実施している。各学科が実習作品の展示・販売や課題研究の結果発表などを工業祭の目的に沿って実施している。

実践対象は、デザイン科(以下、本学科)2年(78名)である。本報で報告するCafeの運営は、工業祭が行われた2016年12月10日(土)～11日(日)の二日間実施した。

(2) 実践の目標

本実践は、生徒同士のコミュニケーションや接客など、焙煎コーヒー等を提供する模擬店(以下Cafe)を企画・運営する体験を通して、生徒達に社会人基礎力に繋がる多くの事について、体験的に学ばせる事を主な目標にしている。また工業祭の目標は、日常の学科実習等の授

業成果としての研究物や作品の展示、公開実習により、「生徒の自主性・創造性・協調性を育てる」ことを挙げている。本実践では特に、日常学んでいる専門知識や技術を実際に使い、「社会人基礎力」における3つの能力の理解と育成を目指した。

(3) 評価方法

評価はCafe実施前、実施後の計2回、生徒の社会人基礎力に対する変化を把握するために、同質問項目でのアンケート調査を実施し、実施前後の結果の変化を比較した。また、自由記述による生徒の意見や提案、感想等を集約し、本実践の成果と課題を考察した。

(4) 実践(授業)方法と形態

実践は、4月から開始し、総合的な学習の時間に代替されている課題研究(週3時間)の時間内に、月1~2回程度組み入れて実施した。またホームルーム(LHR)の時間や、各項目に関連する専門科目においても一定時間を確保することによって、横断的かつ集中的な取り組みを行った。各授業では基本知識に関しては一斉授業で行い、討議や演習はグループ活動を中心に進め、12月

表1 主なスケジュール(L:LHR, 課:課題研究)

月	主な内容	目標	授業
4	生徒の実態把握、前年度のCafeの実施状況の確認	前年度の課題を確認	L・課
5	実行委員会発足・スケジュール確認・テーマ設定	全体計画と時間の見積	L
6	前年度のCafeの仕事分担・流れの確認	仕事内容の把握と分担方法検討	課
7	係決め(実行委員)ブレCafe7/20事前アンケート実施	プロトタイプから改善点の確認	L・課
9	2学期の計画を確認	実施計画	L・課
10	班決め(全員)、各班の取り組み、準備	適切な班設定	課
11	本番12/10~11	協調した取り組み	L・課
12	事後アンケート実施		

の本番へ向け取り組んだ(表1)。

班分けに際しては、配属希望の班を第三希望まで記入した調査票を参考に、生徒の希望をできるだけ尊重しながら教師が調整を行った。また、調整にあたっては、過度な同調や、馴れ合いを避け、ある程度の緊張状態を保って、お互いの意見や、考え方の検証が可能になるように配慮した。生徒には、調整方法を事前に説明し、理解を得ていたため不満等は出なかった。

(5) 必要な知識技能のICT教材化

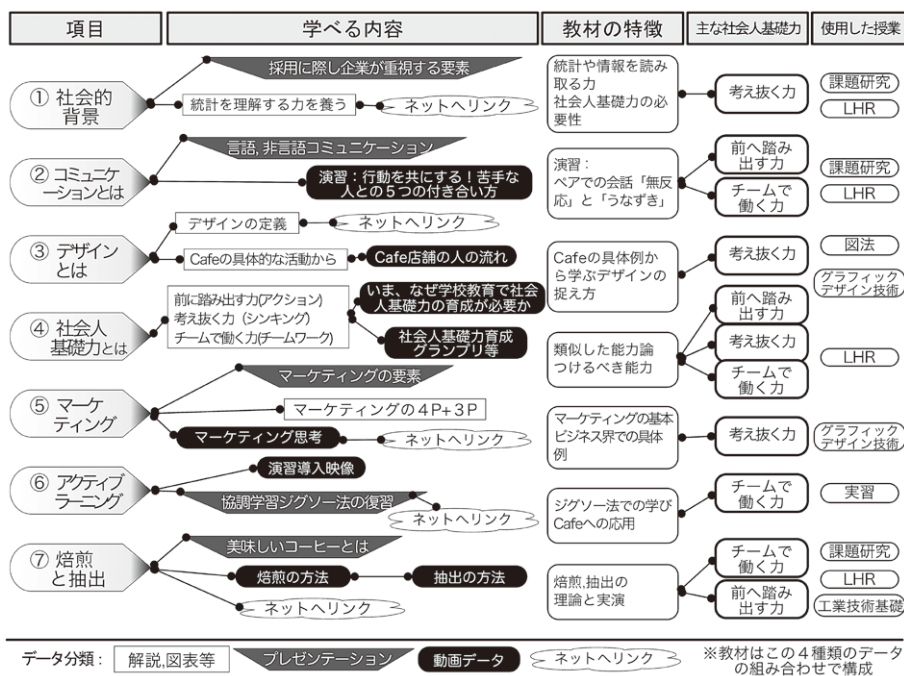


図2 iPad教材の各項目と学べる内容及び、社会人基礎力との関連

生徒達が社会人基礎力に繋がる多くの事について体験的に学ぶために、割り当てられた時間は、話し合いや活動の予行演習などできるだけ多く実践活動に振り分けられる事が望ましい。したがって、実践の前提となる知識を効率良く学べる環境を整えることが必要になる。そこで、iPadを使用して生徒達がCafe運営に必要な知識を学ぶ事ができるICT教材（以下、iPad教材）を開発した。教材の開発には、Apple社のiBooks Author^[10]を使用した。iBooks Authorは、電子書籍作成のために開発されたソフトウェアで、情報の階層化や順番づけ、内容の組み換えや補正が容易に行える特徴がある。教材の開発は以下の4点に留意して行った。1)2年専門科目授業計画に沿っている、2)用語の定義や関連知識、技術的解説がある、3)内容は主に「解説図表等」、「プレゼンテーション」、「動画」、「ネット接続」により学習を深化できる、4)過去の取り組み方法の作成データを再活用する。

開発したiPad教材の使用時間に関する数値データは無いものの、随時必要に応じて使用した。これによりCafeの取り組みをナビゲートできるため、多くの時間を対話やシミュレーションに当てることが可能となった。例として、焙煎や抽出技術は温度や、時間等、科学的根拠に基づいた動画を視聴して、繰り返し練習を行う。この知識と体験の両面から、自らのペースで学ぶことが可能である。開発したiPad教材によって、より体験的に学ぶ時間を増やせた。iPad教材の構成は、以下①～⑦の7項目で、各項目の内容を「社会人基礎力」に関連付けて学習できる（図2）。

①社会的背景

Cafeの取り組みを通して身に付けてもらいたい事項として、協調性やコミュニケーション能力がある。iPad教材では、なぜそれらの能力が社会で求められているのかを理解させるため、統計資料を組み込んだ。具体的には、東京商工会議所による「2010年新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」^[11]や、経団連による「2015年度新卒採用に関するアンケート調査結果の概要」^[12]である。まず、一斉授業でこれらの統計資料の見

方や社会的背景について解説を行い、概要を把握させ、企業が新卒者採用において重視する能力が、他者との良好な関係構築能力であることを理解させた。教材に組み込まれている資料をもとに、なぜ社会で協調性やコミュニケーション能力が重視されているか、その理由についてグループ活動を通して考えさせて、仕事を進める上で多くの人々との役割分担の大切さ、それに伴う責任や、他者との関わり方の重要性についての理解を促した。Cafeにおいても、他者と協力して何かを成し遂げるという事は、容易な事ではない。意見の食い違いや、誤解やトラブルが起こる。その解決のためには、社会的背景を理解した上で、まわりと協調して、ものごとを行う経験が必要になる。

②コミュニケーションとは

コミュニケーションには「言葉」によるものと、「言葉以外（非言語）」によるものがある。声や表情、振る舞いや態度、服装等、これらの非言語による情報は、相手に与える影響が大きいと言われている。

Ray L. Birdwhistell(1918～1994)^[13]は、対人コミュニケーションについて、「二者間の対話では、言葉によって伝えられるメッセージが35%、残りの65%はジェスチャーや表情、会話の間などの言葉以外の手段によって伝えられる」と述べている。同様に鈴木(2013)^[14]は送信者と受信者の関係から、「情報発信者が上手に発信し、受信者が上手に受信すれば双方に生じる誤解は少ない。しかし、両者が下手であれば情報の送受信がうまくいかず、誤解をうむことになる。」と述べ、日常生活におけるコミュニケーションの相互の関係性、文脈、各種伝達手段との組合せなどを指摘している。iPad教材ではこれら非言語コミュニケーションの場面を教師が実演し、映像収録して視聴させた。それを基に生徒間で演じあって、無視や、何の反応も示さない険悪な人間関係と、うなずきなどの良好な人間関係を擬似体験させて、言語、非言語両面からのコミュニケーションについての理解を深めさせた。

③デザインとは

デザインという言葉の意味には狭義、広義ある。狭義

表2 類似した様々な能力論

能力論	作成者	作成年
キャリア発達にかかわる諸能力	国立教育政策研究所生徒指導研究センター	2002
人間力	内閣府	2003
就職基礎能力	厚生労働省	2004
社会人基礎力	経済産業省	2006
学士力	中央教育審議会	2008
基礎的・汎用的能力	中央教育審議会	2011

は、下絵、図案など商品やパッケージ等の形態・模様・造形・グラフィック等の美術的イメージを指し、広義は、問題や要求を検討、調整、全体を計画設計して造形し、問題の本質に取り組むことである。Cafeでは広義の意味で使用し、「伝えるべき情報を抽出して、その価値を整理し、再構築して視覚化する技術」と定義した。

④社会人基礎力とは

この項目は、社会人基礎力の意味や事例等についての紹介である。最終的な目標である「社会人基礎力」は、その他の6項目の内容を理解し、Cafe運営を経験することによって身に付くと考える。

iPad教材では、ネット上の情報へのリンクで、具体例から学ぶ事が可能である。例として「いま、なぜ学校教育で社会人基礎力の育成が必要か」^[15]や、「社会人基礎力育成グランプリ」^[16]の取り組み動画がある。いずれも大

学生が対象ではあるが、コンパクトな事例や、短時間の動画で基本事項を学べる。また、類似した社会的自立に必要な能力についても紹介した(表2)。

⑤マーケティング

本学科2年専門科目「グラフィックデザイン技術」にはマーケティングの単元がある。その基本事項として「マーケティングの4P」^[17]がある。また、サービス業では「サービスの3P」^[18]が利用されている。授業ではこれらを合わせた7Pを学んでいる(表3)。

Cafeではこの7Pに対応させた、表3中のA～Dの4班に分かれて取り組みを行った。

「マーケティングの要素」については、昨年作成したプレゼンテーションデータを組み込み再活用した。マーケティングで使用される曖昧な用語に関しては図解して解説を加えた。例として「戦略」や「戦術」の軍用用語が、経営学やデザイン分野へ転用^[19]されたなどである(図3)。またより専門的な理論を学びたい生徒のために、ネット上の動画「マーケティング思考徹底講座」^[20]へリンク接続させて、知識を深められるよう工夫した。

⑥アクティブラーニング(協調学習・ジグソー法)

本報では三宅ら(2014)^[21]の、知識構成型の協調学習・ジグソー法に拠った学習観を前提に協調学習の語を用いる。本学科では、2014～2015年度の2年間、カリキュラムの改編に伴い、授業改善を目的にジグソー法を

表3 マーケティングの4Pにサービス業界の3Pを加えた7Pに合わせた班分け

	マーケティングの4P				サービスの3P		
	A班		B班		C班		D班
	① Product	② Price	③ Placement	④ Promotion	⑤ Personnel	⑥ Process	⑦ Physical
	商品戦略	価格戦略	流通戦略	プロモーション戦略	人(要員)	プロセス	安心保証
内容	ネーミング、パッケージ、売り上げの計画	コスト計算、価格設定	商品流通、物的流通、情報流通	広告(AD)、販促(SP)、広報(PR)	要員計画	段取り、下準備、手順	安心保証、商品プレゼン
目的や方法	・顧客の求めているモノ・コトは何か ・顧客は何を解決したいのか ・どんな体験、感覚を味わうことができるのか	・商品の価値と価格のバランスはどうか ・コストと収益のバランスはどうか ・どう価格を決定的にいくのか	・製品をどこで入手できるのか ・どのような経路で渡すことができるのか ・販売領域はどうか	・商品を知ってもらうための手段は何か ・どのように宣伝するのか ・宣伝のタイミングはいつが良いか	・必要な要員数とタイミング ・要員の管理・教育	・より良いサービスを提供するために、段取りを組んだり、当日の下準備や手順を考える	・顧客に見えないものへの不安を払拭するために可視化する(カフェ運営の意図や活動の説明・証明・発表) ・運営する上で必要な証明書、契約書
具体的例	メニュー開発(焙煎コーヒー豆、ハンドドリップコーヒー、スイーツ・・・) パッケージデザイン、会計		店内外の装飾やレイアウト 広告(ポスターやチラシ作り) テーマを意識した空間(音楽)作り		人数構成、シフト表作成 接客マニュアル作成、接客練習 衣装(エプロン等)		全体を取りまとめる パネル作り(店舗デザインを通して日頃の勉強の成果を発表する)



戦略→全体の構想や方針
戦術→戦略に基づいた手段

図3 戦略と戦術

取り入れた研究を行った^[22]。その成果として、この学習形態はグループでの対話を中心に進むため、一斉学習や個別学習時よりも他者の考え方や知識に触発される効果があり、学習の幅が広がる事が分かった。また対話に

は、自らの考えを順序立てて説明する必要があることから、論理的思考の育成も期待できることも分かった。くわえて他者の異なる意見や考え方に、同調や反発が刺激となり、競争心も起こるため、学習の動機づけとなる効果も確認できた。

2年生は、1年生でこの学習方法を経験しており、Cafeの取り組みもこのスタイルで展開できるようiPad教材では、2014~2015年度に整理した基本事項や成果についての、プレゼンテーションや、動画を組み込んだ。

⑦ コーヒー焙煎・抽出等動画

コーヒーの焙煎・抽出の方法について理解するための項目では、必要な道具とその方法について、手順を示した動画資料によって学習できる。動画資料は、外部専門家の講習を受けた教師の実演を撮影して作成し



図4 下準備から開店までのCafe運営の流れ

た。これにくわえて、Web上の様々な焙煎・抽出方法を紹介した動画で、その方法や技術を確認できるように、Web資料へのリンク情報も掲載した。これらの動画を、手元で確認しながら繰り返し練習できるのは、iPad教材の大きな特徴である。これにより様々な方法を比較検討できるため、生徒達はお互いの方法を検証しながら学ぶことが可能になった。

(3) 取り組みの流れ

企画立案の際には前年度の課題の解決と、新たな工夫が、2年生に課せられる。そのため、取り組みの最初の全体会で、前年度の課題について確認し、生徒達に解決のための具体策を出させた後、基本的な解決の選択肢の例を示した(表4)。その後、生徒達だけで考え

表4 前年度の課題と解決のための選択肢の例

<p>前年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎ等の連絡が不十分。 ・決められた事項を確認せず、勝手な方法で客に対応した。 ・自分の考えばかり主張して他者を批判し、良好な人間関係を築けない場面があった。 ・もっと話し合いながら出来る時間が必要。 ・言われたことをやっていただけで、自主性はなかった。
<p>解決のための選択肢の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き継ぎ表を貼り出し、仕事内容を明確にする。 ・仕事の手順を貼り出して見える化して、手順を確認する。 ・相手を説得するのではなく、お互い納得できるまで話し合い、最善案に向け調整する。 ・接客や焙煎等の基本を踏まえた上で、仕事に創意工夫を加えてみる。

る時間を増やし、徐々に教師からの指示を減らして運営をさせた(図4)。問題解決についての討議を経て、新たな企画や、アイデアを生かした新メニューが提案され

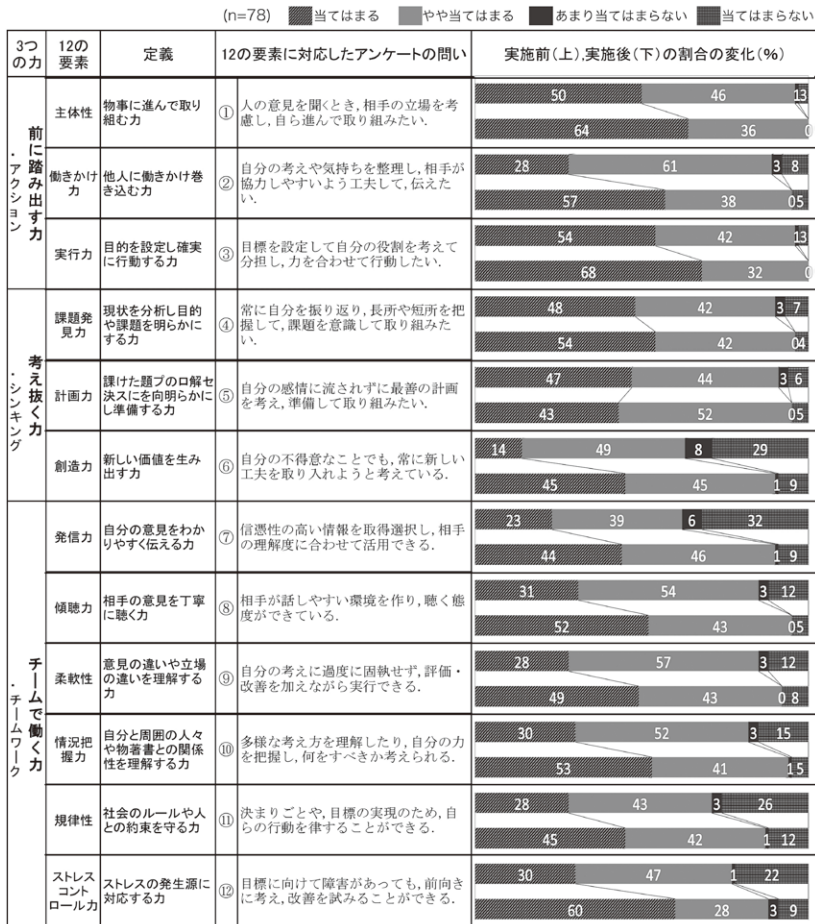


図5 Cafe実施前と、実施後の意識の変化

た。図4中④に示すホットケーキやアイスコーヒー等はその一つである。前年度は、食品衛生上の問題によって提供できなかったが、今年度は、保健所の模擬店開催のための手続や、講習会での指導を受ける事によって実現した。これにより、前年度の課題の一つであった自主性の無さについては、創意工夫を凝らしたメニューを開発するなど、主体的な取り組みが行えた。

Cafeの運営にあたっては、綿密な計画と店舗レイアウトをはじめ、デザインの統一感が重視される。そのため、「伝えるべき情報を抽出して、その価値を整理し、再構築して視覚化する技術」であるデザインの力が問われており、専門科目で学習した内容を実践の場で活用するという意識を持たせるように留意した。

取り組みはA班(商品戦略・価格戦略)、B班(流通戦略・プロモーション戦略)、C班(要員・プロセス)、D班(安心保証)の各班に分かれて活動した。特に接客、会計、キッチン、焙煎、誘導等の担当者は、当日の連携が大切になってくるので合同での打合せや、シミュレーションを繰り返し行った。焙煎班は豆の煎り具合の段階を示す「焙煎サンプル色見本」(図4中⑤)を作成して、客観的な基準を視覚化して、豆の焙煎状態を確認し、何度も練習を重ね本番に臨んだ。Cafeへの来客数は、二日間で約650人と盛況で、約13万円の売上が得られた。純益は約6万円あり、授業で使用する教材費に組み入れられた。

表5 Cafe実施前と実施後の変化の観点

1) 「前に踏み出す力」がどれだけ成長したか
2) 「考え抜く力」がどれだけ成長したか
3) 「チームで働く力」がどれだけ成長したか
4) 本学科で学ぶ専門知識をどれだけ深めることができたか

(4) 取り組み内容についての評価

Cafe実施前(2016年7月下旬)と、実施後(2016年12月中旬)の計2回、表5に関する生徒の変化を把握するために、同質問項目でのアンケート調査を実施し、その結果を比較した。アンケートは実施前、実施後とも回答は

無記名で行い、欠席者等に関しては後日実施した。回収部数、有効回答数はともに78名(100%)で全員が全て適格に回答した。質問項目は、「社会人基礎力 育成の手引き」^[23]の「発揮できた例」を参考にして筆者らが設定した。各質問項目の内容と実施前、実施後における生徒の意識の変化を図5に示す。

また、Cafe実施後のアンケートでは、自由記述欄を設けて、生徒の意見や提案、感想等を集約した。

○前に踏み出す力(アクション)について

①主体性、②働きかけ力、③実行力は、いずれも「当てはまる」と答えた割合が増しており、①と③に関しては「やや当てはまる」と合わせると100%に達していることから、Cafe運営の体験が、「前に踏み出す力」の育成に効果があったと考えている。

○考え抜く力(シンキング)について

④課題発見力、⑤計画力、⑥創造力、に関して、⑤計画力については、「当てはまる」と回答した割合が、12項目中で唯一実施後に減少している。しかし「やや当てはまる」と合計すると、実施前の91%から実施後の95%へとやや増加しているため、肯定的な回答全体は増加している。これは、実際の体験を経ることによって、「自分の感情に流されずに最善の計画を考え、準備して取り組みたい」が事前に考えていたよりも難しい事に気づいた結果とも受け取れるので、生徒が自己の対応力をより客観的に把握できるようになったと肯定的に捉えることも可能であろう。

○チームで働く力(チームワーク)について

⑦発信力、⑧傾聴力、⑨柔軟性、⑩状況把握力、⑪規律性、⑫ストレスコントロール力では、全てにおいて「当てはまる」、「やや当てはまる」という回答が増加しており、チームワークの重要性を生徒達が認識できたのではないかと考えている。特に⑫ストレスコントロール力に関しては「当てはまる」が実施前30%から実施後60%と2倍に増加していることから、チームでの取り組みの過程で何らかの障害が生じた場合でも、前向きな考え方によって、改善する力が身に付いたと感じている生徒が多いことが推察できる。



図6 テキストマイニングツールによる視覚化

これらのアンケート内容は、社会人基礎力を構成する12の要素に関する問いに限定して実施した。実践前、実践後での各項目に対する認識の変化を通して、実践内容の成果を限定的ではあるが、確認できたと考えている。

自由記述に関しては、記述の頻出頻度によってフォントサイズが大きく表示される「UserLocalテキストマイニングツール」^[24]を使用して視覚化した(図6)。これにより取り組み内容に対して好感度の高い記述を示すと、「生演奏」、「エプロン」、「笑顔」、「やり遂げる」、「計画的」、等がある。特に生演奏は初めての試みであったが好評だった。また、店員のユニフォームとして作成したエプロンに関しては、チームの一員としての帰属意識に対する評価と考える。

一方、改善すべき記述としては、「食い違う」、「焙煎」、「人任せ」、「私語」、「器具不足」、「マニュアル」、「分別」、などの意見があり、今後もより一層の改善と効率化が必要と考える。

さらに、少数ではあるものの重要な意見として、接客班では「アルバイト経験者が率先して的確な指示を出したこともあり各自がやるべきことを理解して連携できた」との記述があった。アルバイト経験者の実体験にもとづく意見の重要性が班内で共有されていて、生徒間での役割分担とコミュニケーションが円滑に進んでいたことが示唆される。

4. 考察

(1) 社会人基礎力の必要性

実施前後の両アンケートの比較からCafe運営の体験は、社会人基礎力を構成する各要素の向上に効果をもたらしていると考えられる。ただし、自由記述の内容からは、昨年度の課題の克服に向けての取り組みが必ずしも改善出来ていないことも確認できた。昨年の課題「引継ぎ等の連絡の不十分さ」や「決められた事項を確認せずに勝手な方法で客に対応した」、「つい他者を批判してしまい、良好な人間関係を築くことが難しかった」等への対応として、取り組み前にこれらの課題を共有して、対策を考えさせて臨んだ。しかし、自由記述の結果からは、今年度も「人任せな人がいた」等の改善すべき点が挙げられており、参加者全員が積極的に協力して仕事をしていく環境を整えることの難しさをあらためて感じた。これらの改善は、将来職場や地域社会において、多様な人々と仕事をしていくために必要な、社会人基礎力を身に付けるためにも重要である。社会に出る前に必要な、知識の不足、思い込み、勘違い、独断性が自らの中に無いかを意識させ、相手を認めることの大切さに気づかせる指導が必要だろう。このことは、キャリア教育を通して社会人基礎力を身につけさせる大きな理由の一つと考えている。

(2) 「社会人基礎力」育成のための指導方法の工夫

前述の2014～2015年の2年間取り組んだジグソー法での課題として「追従」や「服従」があった。これは、主導権を持ったグループ内の数名に、意見や決定が偏るというもので、グループ学習において指導を行う際に注意を要する点である。そうならないよう、生徒一人ひとりの役割の確認と問題解決の過程を、生徒自身に考えさせる事が大切だろう。そもそも問題解決は、何が問題なのかを発見し、理解して、解決のための提案をし、他者との交流や同意を得て、実行に移していく事の繰り返しである。その過程の意見交換から、反対意見や、異質のアイデアが出現しても、分類整理して、解決策を見出す必要がある。これらの考え抜くプロセスには、情報収集

力が不可欠で、まずは、他者との見方や、思考方法の違いを受け入れる事が、考え抜く力を育成する大切な過程だと考えている。

また、チームで物事を進める事に慣れていない生徒にとって、他者と協力して物事を進める事はある種のストレスを伴う。しかし、チームの目標達成のために自分の意見をわかりやすく伝える事ができて、相手の意見を丁寧に聴く態度が徐々に身についてくると、チーム全体が創造的な方向へ向かう。大切なのは、目標の確認と、それを成し遂げる過程や方法の共通認識である。そのために教師は、生徒の出来ることから取り組ませて、自信を付けさせ導くことが肝要だろう。

また、全員で振り返りの場をつくることで、客観性が高まり、課題を明確に認識して、チームで働くことの意義や重要性を理解していく。このことは、教師間においても、新たな教材開発の視野を広げ、指導方法の確立にも繋がると考えている。

(3) 体験による「社会人基礎力」育成の工夫

社会人基礎力の育成を急ぐあまり、教師は即、知識を与え、効率の良い仕事の進め方を指導しがちである。し

かし、この実践においては、担当した教師が、指導に重きを置くのではなく、対話によるヒントや、質問を通して間接的な支援を心がけた。また、対立する意見や、強烈な個性を持った生徒がいる班には、全体の目的や方向性の確認を優先させることを促して、個人的な不必要な摩擦を和らげさせて、生徒のコミュニケーション能力の育成に努めた。

生徒達は、社会人基礎力の必要性は感じてはいるが、具体的に何を、どの様にすればそれが身に付くのかは、分からない。そこで、各班に仕事内容や手順を具体的に提示できるように促し、常に目的や手順を意識して行動することを指導した。具体的には、接客方法のシミュレーションや、コーヒー抽出手順等の理解を助ける説明図の作成と掲示を指示して、作業内容がイメージできるような工夫をさせた(図7)。それにより仕事内容の具体的なイメージが把握できたため、班のメンバーの言動や行動の意味が理解でき、チームで働くことの大切さと重要性について理解が深まった。

生徒自身が、Cafeでの活動を通して、班内での自分の役割を見つけたり、計画とは異なる状況に直面した場合に、試行錯誤から修正することを学んだり、他者と関わることで視野が広がることが実感できたようである。

取り組み終了後の反省会では、生徒から「社会人基礎力」の必要性を強く感じたという感想が多かった。この事は、知識と体験が一体化した教育効果と考えることもでき、体験から学ぶ事の重要性を改めて認識させられる結果となった。

(4) 今後の実践における調査方法の検討

本実践は、Cafeの内容の紹介と、その活動が社会人基礎力の育成、またはその認識を高める事に効果が見られたかについて、確認することを目的にした。そのため、第一段階の取り組みとして、社会人基礎力について体験的に学ばせる事を主な目標にしていることから、今回のアンケートは社会人基礎力全体に対する大まかな傾向を確認するものとなっている。個々の項目については、今後の実践においてより精緻な調査を実施して、検証したいと考えている。



図7 コーヒー抽出手順の見える化

5. まとめ

〈引用・参考文献〉

教育方法の学習効果の違いについては、Edgar Dale の「経験の円錐」^[25]がある。西城・菊川 (2013)^[26]は、これを例に挙げ「実際に協同的なグループ討議や作業、実際の現場で実践してみる行為を通じて、ようやくその記憶の7~9割は短期ではあるが残るのである」とその重要性を指摘している(図8)。一方、「実際に現場で実践してみるのが有効であるとはいえ、何の知識もレディネスもなくしては、やはり理解するには不十分な学びである。」とも述べており、具体的な目標の設定や包括的かつ柔軟な学習方法を整備することの重要性を指摘している。

社会人基礎力の育成にも、体験活動に必要な知識やノウハウを事前学習した上で、具体的な職業体験を持つことの組合せが、有効であると言えるだろう。

本実践では、専門科目の内容と連携したCafe運営体験を核にして、生徒の社会人基礎力の育成を目指した。その過程で、実際のCafe運営の体験活動を取り入れた「キャリア教育」の重要性について再認識する結果となった。また、生徒達の社会人基礎力の育成に貢献する事ができたと感じているが、実践プログラムの改良が必要である。特に、指示やヒントがなくても状況を自分で判断して、責任を持って活動できる、主体性を育成するための取り組みについて、今後も継続した検討と改良を行っていきたい。

- [1] 中央教育審議会 (2011), 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」, p.16
- [2] 文部科学省 (2009), 「高等学校学習指導要領解説総則編」, p.70
- [3] 島田尚徳「沖縄の若年者雇用の現状～統計データからの分析～」, <http://www.kaiho-ri.jp/wp-content/uploads/2014/05/kri-outlook032.pdf>, Vol.105かいぎん12月号 2013,2017年1月15日閲覧
- [4] 経済産業省, <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/>, 2017年1月15日閲覧.
- [5] 経済産業省 (2010)『社会人基礎力 育成の手引き—日本の将来を託す若者を育てるために 教育の実践現場から』調査 河合塾／朝日新聞出版) ,p.39. <https://www.wakuwaku-catch.com/> 社会人基礎力/社会人基礎力育成の手引き/,2017年5月8日閲覧
- [6] 経済産業省, 「社会人基礎力育成の好事例の普及に関する調査報告書」, 2014.
- [7] 田中正一 (2015) 「高大連携—工業高校を例として—」, 埼玉工業大学教養紀要(32),pp.15-24,2015-03-01, 埼玉工業大学出版会
- [8] 富山祥瑞 (2007) 『教育学部における「デザイン教育」の教育実践』問題解決型学習としてのデザイン教育を目指して, 愛知教育大学研究報告書, 56, pp.13-20
- [9] 文部科学省 (2009) 「高等学校学習指導要領第4章 総合的な学習の時間」, p.292, www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/kou/kou.pdf,2017年6月5日閲覧
- [10] Apple公式サイト, <http://www.apple.com/jp/mac/ibooks-author/>,2016年7月9日閲覧
- [11] 東京商工会議所 「2010年新規高校卒業予定者の採用に関するアンケート調査」, 2010
- [12] 日本経済団体連合会 「2015年度 新卒採用に関するアンケート調査結果の概要」, 2015.

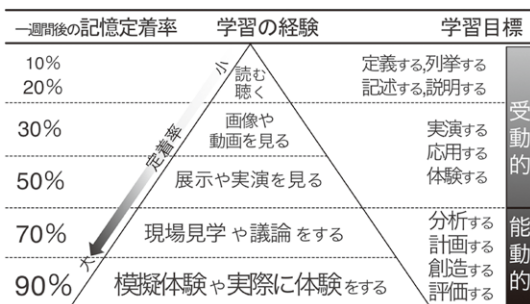


図8 能動的な活動である方が学習効果が高い
「西城・菊川(2013)」の図を基に筆者がグラデーションや矢印を加筆して作成.

- [13] 非言語コミュニケーションの種類と重要性, <http://ofee.tank.jp/nonverbal/>,2017年1月15日閲覧
- [14] 鈴木晶夫 (2014) 「非言語行動を手がかりとした人間関係研究：身体接触を中心に」,(ふれあいの科学 (第17回学術集会2013.09))-(シンポジウム),心身健康科学Vol.10 No.1 p.5-9
- [15] 諏訪康雄「諏訪康雄先生による,大学教育での社会人基礎力育成のススム」, <https://www.youtube.com/watch?v=WH1VkUKigGk>, 2017年1月15日閲覧
- [16] 経済産業省「社会人基礎力育成グランプリ」, <http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/gp.html>,2017年1月15日閲覧
- [17] 岸孝博 (2003) 「マーケティングカフェ」,PHP研究所,pp.64-65
- [18] 誰でもわかる! マーケティング戦略の基本,<http://inote.co.jp/basic-of-marketing-strategy1-2/> , 2017年1月15日閲覧
- [19] 岸孝博 (2003) 「マーケティングカフェ」,PHP研究所,pp.9-12
- [20] 青木 広人 「マーケティング思考徹底講座」, https://www.youtube.com/watch?v=rPt5GjfE7I0&list=PLY_0p-jFGYy6OZgg2uhV5myJxXUhh3yK9, 2017年1月15日閲覧
- [21] 三宅なほみ他 (2014) 「自治体との連携による協調学習の授業づくりプロジェクト平成26年度活動報告書協調学習が生む学びの多様性第5集-学び続ける授業者へ-」,東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構2014,pp.93-136
- [22] 沖縄県教育委員会指定研究として,「平成26～27年度魅力ある学校づくり推進事業 生き生き活性化支援事業」,2014～2015
- [23] <引用・参考文献>[5]と同様.
- [24] <http://textmining.userlocal.jp/home/result/62d3cce10b312ac1c32e021b868a4967>, 2017年5月6日閲覧
- [25] Dale, Edgar(1946) 「Audio-Visual Methods in Teaching」,NY: Dryden Presss
- [26] 西城卓也, 菊川誠 (2013) 「医学教育における効果的な教授法と意味のある学習方法①」, 医学教育 Vol.44 (2013) No.3 ,pp.33-141

